

アイリス

Iris



学名：Iris L. (アイリス)
科名：Iridaceae (アヤメ科アイリス属)
原産地：北半球

花

アイリスには、根が越冬して翌年も花を咲かせる宿根アイリスと、球根をもつ球根アイリスがあります。

ここで紹介する宿根アイリスは、生育地が水辺の湿性地と乾燥地に分かれます。先のとがった細長い葉が扇状に生えており、葉脈は平行に走っています。葉は灰緑から深緑まで品種によってさまざまです。花は6枚の雄花葉（花被）からなり、花びらの先が、3枚は直立し、残る3枚は下方に折れ曲がっているのが特徴です。

栽培ポイント

👤 栽培

宿根アイリスは、一般的に庭植えて楽しめる植物です。品種によって生育地が水辺と乾燥地に分かれるため、場所、植える時期、日照、温度、保湿性、手入れの方法、栽培条件が少し異なりますが、栽培方法はどれも簡単です。

ジャーマン・アイリス、アヤメ、イチハツなどの品種は、乾燥した水はけのよいアルカリ性の土壌を好みます。開花時期は5~6月、高さは60~100cmほどになります。花色の変異が多く、白、黄色、オレンジ、赤、青、紫など色彩豊かなのが特徴です。6月の花後から10月にかけて、根茎の上部が出るくらいの浅植えにします。

ハナショウブやキショウブ、カキツバタは日本の風土に適した品種で、湿った土壌のほうがよく育ちます。江戸時代から親しまれてきたハナショウブの中では、江戸花菖蒲、熊本菖蒲、伊勢花菖蒲などが有名です。水辺の花のカキツバタやキショウブは、3~4月に日当たりのよい浅い池や水際などに直接苗を植えます。

宿根アイリスの種は、株をしっかりとさせるために古い根を切る根切り作業がほとんどありません。しかし、株分けや植えかえ、株が繁殖しすぎたときには根切りが必要です。また、葉が黄色くなってきたり枯れてきたときには、あえて根切りをしましょう。



アイリス

シベリア・アイリス。湿地を好み、草丈は1mまで伸びます。花は青紫色で花弁が大きく、幅5~6cmあります。

MEMO	👤 栽培：難易度 ★☆☆☆☆	🌸 開花時期：5~6月
	🌡️ 生育温度：15~25℃ (乾燥地) 20~25℃ (湿性地)	🌿 収穫時期：-
	👉 手入れ：花が終わった茎を切り取り、枯葉を取り除く	📏 高さ：60~100cm
	🏠 土：7：3 (赤玉土：腐葉土)	🦟 病気・害虫：軟腐病、灰色カビ病、ヨトウムシ



キショウブ。水辺での栽培に向いているので別名「水アヤメ」とも呼ばれます。草丈は乾燥地で60cm、湿地では1~2mに達することもあります。

生育温度

生育地によって適温が異なります。乾燥地に適応するジャーマン・アイリスなどは15~25℃ですが、湿性に適応するハナショウブなどは20~25℃の温度が必要です。シヤガなどのように、10℃以下の気温に耐えられない品種もあります。

手入れ

花が終わると茎が腐敗するので、根茎まで腐らせないように茎を切り取りましょう。また、枯れ葉は取り除いて風通しをよくします。

日照

ジャーマン・アイリス、キショウブ、アヤメなどの乾燥を好むアイリスは、年間を通して日当たりがよい環境が必要です。ただし、風が当たると花が傷むので、風が直接当たらない場所を選びましょう。いっぽう、湿地性を好む品種は、4~10月には半日陰にするとよいでしょう。

水やり

乾燥地の品種には、頻繁に水やりします。ただし、過湿になると根茎が腐ったり、生育を妨げたりするので、水はけのよいことが条件です。湿性地の品種は11~3月の休眠期間

以外は、常に水を絶やさないようにします。水やりの頻度は乾燥地のものと同じくらいで、与える量を変えるのがよいでしょう。

土

赤玉土7に腐葉土3を混ぜた土を使います。土壌が酸性になりやすいピートモスは、使わないようにしましょう。

肥料

3月と6月に、化成肥料を株の周囲に置肥として与えます。ただし、量が多すぎると株が腐りやすくなるので、控えめにしよう。

植えかえ

毎年、6~7月に植えかえます。放っておくと、株が老朽化することがあるので、毎年定期的に行いましょう。

購入アドバイス

苗なら、大きくしっかりとしたものを選び、根腐れしていないか、よく見ましょう。大株なら葉先が元気で垂れていないものを選びます。品種によって栽培方法が違うので、品種名を確かめて購入しましょう。



変種の「フィアース・ファイア」



黄色の斑入りの青いジャーマン・アイリス。別名「虹の花」と呼ばれます。

殖やし方

花後に株分けで殖やします。株の消耗を防ぐために、葉は半分以上に切り詰めましょう。大きな株をナイフで切り、その切り口をベンレートのような殺菌剤で消毒します。また、ハナショウブのように種から殖やせる品種もありますが、種から育てると花が咲くまでに3年ほどかかってしまいます。

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日照		日向	日向	日向	日向	日向	日向または半日陰	日向または半日陰	日向または半日陰	日向または半日陰	日向	日向	日向
水やり		ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	少なめ	少なめ	少なめ	少なめ	ふつう	ふつう	ふつう
肥料													
植えかえ													

病気対策と害虫防止

- 特有の悪臭を発生し、地際部から地下部にかけてドロドロに腐敗するのが軟腐病です。害虫の食害のあとや刃物の切り取りあとから病原菌が侵入して、発病します。薬剤による効果はないので、発病した部分は切り取りましょう。
- 根や球根が褐色になり、白いカビが発生するのが白絹病です。高温多湿のときに発生しやすいので、湿度に注意が必要です。発病したら、病株を抜き取りましょう。また病原菌は土壌の中に生息するので、発病後の土は処分するかバリダシン液剤で消毒します。
- 花やつぼみ、葉を食害するのがヨトウムシです。補殺するカスミチオン、オルトランなどの薬剤で駆除します。

変種の「ホワイト・シティ」



ハナショウブ。草丈は80cmまで伸び、花幅は20cmにもなることもあります。